

風間浦村・大間町



1 稲成神社 風間浦村

稲成神社は下風呂字湯ノ上に鎮座し、明暦3年(1657年)の勧請。稲成神社祭典は村内唯一の秋祭り、船山車に飾られた提灯が、秋の夜を彩ります。下風呂温泉街から神社までの坂道を、獅子を振りながら歩く「くるい獅子」は祭りのフィナーレを告げ、住民と観光客を魅了します。



2 海峡いさりび公園 風間浦村



下風呂温泉郷の観光拠点となっている「海峡いさりび公園」。この公園は、潮の干満を利用して、公園内にある内海に海水を引き込むようにつくられております。また、公園内には、対岸の北海道を一望できる展望台、下風呂温泉とゆかりの深い作家井上靖の文学碑、同志社大学創始者新島襄の寄港記念碑などがあります。

【二見岩】

伊勢の二見岩とならんでその神秘的な岩の形が、多くの人々を惹きつける二見岩。この二見岩に鎮座する恵比寿神社は、大正9年(1920年)9月勧請。大正時代、この地にかかりきり、そのまま居住するようになった人達が、島根県美保神社に向い、分霊の許可のもとに鎮座させたといわれています。

3 八幡宮 風間浦村

八幡宮は易国間字湯ノ上に鎮座し、享保年間(1716年~1736年)の勧請。子どもから大人まで家族ぐるみで運行する船山車が、町内せましと練り歩く八幡宮祭典では、帰省中の人達も一緒になって参加して年に一度の祭典を楽しみます。



4 大石神社 風間浦村

1678(延宝3)年の勧請とされ、1687(貞享4)年再造営の棟札がある。大石神社には、この地域と人々と、蝦夷地との関わりを物語る絵馬が奉納されている。祭典では、「ヤレヤレヤレ」の威勢のよい掛け声とともに、襦袢姿の若者達が引く船山車が、町内を練り歩きます。また、易国間漁港で行われる海上安全祈願では、住民が心を一つにして大漁と海上安全を祈ります。



5 東伝寺 風間浦村

田名部海辺三十三観音第13番札所。

6 折戸神社 風間浦村

折戸神社は蛇浦字赤平に鎮座し、元和3年(1617年)の勧請。折戸神社の御神体は、町から離れた折戸山の奥の院に安置されています。例祭の時、その奥の院から遷座式は、厳粛に古式のまま現代まで受け継がれ、山車、子ども神輿、子どもネプタも出陣して町内を練り歩きます。また、蛇浦漁港では灯笼流しや昔ながらの盆踊りが行われています。

風間浦の山車行事 風間浦村

風間浦村で行われる祭りは易国間地区の「大石神社例祭」蛇浦地区の「折戸神社例祭」桑畑地区の「桑畑八幡宮例祭」と下風呂地区の「若宮稲荷神社例祭」。この4つのお祭りは平成13年に青森県の無形民俗文化財に指定されています。

7 大間崎 大間町



8 稲荷神社 大間町

1730(享保15)年、能登屋市左衛門の勧請と伝えられる。農耕神として倉稲魂命、海上の神として媽祖などを合祀する神社である。例大祭では、京文化が漂う祇園系の祭囃子とともに、天狗を先頭とした稚児行列、山車などが練り歩きます。特に山車どうしがすれ違う時のお互いの激しい囃子のかけ合いが見もの。大間の夏を飾るにふさわしい、年に1度の盛大なお祭りです。

9 阿弥陀寺 大間町

田名部海辺三十三観音第21番札所。

10 崇徳寺 大間町

霊場恐山山系の裾野に門を構え、境内には太古から昏々と湧き出る霊水が存在する。ここには、その霊水を使って醸造した「祀麦雫」という名前のビールを製造・販売しています。



11 春日神社 大間町

越後との商船の交流が盛んだった江戸時代初め、飛騨高山から越後を経て十一面観世音を勧請し、廟堂を建立したのが始まりとされる。例大祭では、稲荷神社とはまた違った祭囃子とともに、神楽、山車が練り歩く。(県無形民俗文化財：奥戸の山車行事)